

サツマイモ

窒素多いと過繁茂に

サツマイモは暑さや台風などの気象災害に強く栽培しやすいことから、家庭菜園で人気の作物です。原産地は中央アメリカで、鹿児島へは、1609年に琉球から伝わったと記録されています。現在の主な品種は、ホクホクした食感が栗のようにおいしい「べにさつま」と、しっとりした食感で甘さが人気の「安納紅」「安納こがね」「べにはるか」「シルクスイート」などがあります。お好みで複数の品種を作ってはいかががでしょうか。

栄養成分は、食物繊維が豊富で、中でもヤラピンを多く含むため便秘の解消に効果があります。また、ビタミンCも多く、美容にも良いといわれています。

今回はビニールトンネルを利用した苗床の作り方と、本ぼの栽培方法を紹介します。

【苗床の作り方】

苗床の保温用として透明のビニールなどの被覆資材とトンネル支柱を準備します。肥料は床1平方メートル当たり堆肥5kg、化学肥料200g（窒素、リン酸、カリが10%の場合）を施します。床は幅120cm、高さ5cm程度の大きさに作ります。3月下旬頃トンネルで被覆した床に種イモを20cm間隔で4列に並べ、種イモが隠れる程度の深さに伏せ込みます。

芽が出るまで床の温度を30度で管理します。芽が出たら、トンネル内の気温を日中は30度、夜間は15度を目標に管理します。50日程度でつるが伸びてくるので、地際の2節を残して、葉数7枚でつるを切り、苗にします。切った苗は3日以内に植えましょう。

【本ぼの栽培方法】

本ぼは水はけの良い畑を選びましょう。できれば2、3年の輪作が望ましいです。植え付け1週間前に1平方メートル当たり堆肥1kg、苦土石灰80g、化学肥料100g（窒素4%、リン酸12%、カリ12%の場合）を施します。窒素が多いと過繁茂になり、イモが大きくなるので、野菜を作った跡地では肥料を少なめにしましょう。うねは高さ20cm程度のかまぼこ型に作ります。5月に植え付ける場合は、黒ポリでマルチをすると、雑草対策にもなり収量が増えます。

植え付け時期は5月中旬～6月下旬です。植え付けの間隔は、うね幅90cm、株間35cm程度とします。つるを水平に植え付けると、イモの数が多くなり、大きさもそろいます。晴天日に植え付ける場合は、株元に土を置くと、苗が焼けるのを防げます。

マルチをしない栽培では、つるが通路を覆う前に、中耕と培土を行います。植え付け後、4～5カ月で収穫します。（鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部野菜研究室研究専門員）

